

「Make Family」

— 2 稿 —

2025/11/08

山極 瞭一朗

〈人物表〉

東村 義之 ひがしむら よしゆき	(46)	教師
東村 綾香 ひがしむら あやか	(17)	高校生
東村 明日実 ひがしむら あすみ	(45)	義之の妻
北坂 歩 きたさか あゆむ	(48)	綾香の実父

1. 高架下の道（夜）

人気のない通り。

北坂歩（４８）は壁にもたれかかり、タバコをふかしている。

東村義之（４６）、眼鏡のブリッジを押し上げて、封筒を差し出す。

北坂、乱雑受け取り、さっと中を確認する。

万札が１０枚ほど。

北坂、ポケットに押し込んで、

北坂 「これって、脅してる？」

義之 「いえ……」

北坂 「だよね、よかった。正当な対価だよね」

義之 「……はい」

北坂 「実の娘なんだし、俺は会う権利あると思ってるけど、違う？」

さっと頭を下げ、立ち去ろうとする。

北坂、タバコをポイ捨て。足ですりつぶして、

北坂 「ねえ」

義之、ピタッと立ち止まる。

北坂 「そんなに自信ない？」

義之 「……」

北坂 「綾香、俺に似てはつきりもの言うだろ。あんたじゃ手に負えないよ。お父さん」

と、ニヤリと笑みを浮かべて、義之の脇を通り過ぎる。

義之、ピクッと頬を歪める。

2. 東村家・リビング（夜）

揚げ物やサラダなど、色とりどりの品が食卓を囲む。義之と東村明日実（４５）は隣り合わせで、対面には東村綾香（１７）が座っている。

黙々と食事中。

義之、ちらつと綾香を見て、揚げ物をつまむ。そして再び綾香を一瞥。何か言おうとして口を嚙み、俯

く。

綾香、気だるげにため息をついて、

綾香 「何？」

義之 「ん？」

と、ぎこちなく眼鏡のブリッジを押し上げる。

綾香 「言いたいことあるならさっさと行ってよ、先生」

明日実 「綾香……」

義之 「家では先生って」

綾香、大きなため息をつき、露骨に音を立てて食器を重ねる。

綾香 「ご馳走様」

と、席を立ち、そそくさと出ていく。

義之 「綾香、さん……」

悲しそうに綾香の背を見つめる。

明日実、義之の肩にそっと手を置く。

3. 東村家・綾香の部屋（夜）

綾香、参考書を開き、勉強している。

4. 東村家・リビング（夜）

義之、ソファで佇んでいる。

明日実、缶チューハイを持って、義之の隣に座る。

義之にひとつ渡して、

明日実 「絶賛反抗期」

義之、苦笑して、プルタブをひく。ごくりと飲んで、大きく息をつく。

明日実 「後悔してる？」

義之 「ん？」

明日実 「私と結婚したこと」

義之 「なんでよ」

明日実 「じゃあ綾香のパパになったことは？」

義之 「するわけない」

明日実、ふっと笑みをこぼして、

明日実 「よかった」

義之 「明日実さんは後悔してるの？」

明日実 「まさか」

義之 「あの子の父親としてふさわしくないとか、その……」

明日実 「何言ってるの」

と、ぐいと飲んで、

明日実 「あなただっと思ってたから結婚したんでしょ」

義之、俯きがちに明日実を見る。

ひとつ頷く明日実。

義之、くつと眼鏡のブリッジを押し上げる。

5. 高校・外観（朝）

古びた校舎が建ち並ぶ。

6. 高校・廊下（朝）

義之、校庭を見下ろしている。

向こうから綾香がやって来る。手元のブレスレットを触っていると、義之に気づく。刹那立ち止まるが、すぐに歩き出す。

義之、ふーっと息をつき、振り向くと、綾香と目が合って、

義之 「あ、綾香さん」

ブレスレットから手を離して、

綾香 「学校では話しかけないでって言っただしよ。見られたらだるいんだから」

義之 「大丈夫」

綾香 「何が？」

義之 「異動が決まった」

綾香 「え？」

義之 「さすがに親子が一緒の学校にいるのはよくないとか、何とか」

綾香 「別に親子じゃないけど、よかった」

と、すたすたと歩き去る。

義之は綾香の背をもの悲し気に見つめる。

7. 高校・教室（昼）

授業中。

綾香は板書を見ながらノートを取っている。
すると、スマホがぶるっと振動し、綾香は手を止める。

密かにスマホを確認して、思わず笑みをこぼす。

8. 高校・職員室（昼）

義之、ひとりお弁当を食べている。

机には厚みのある封筒。

スマホが着信を告げる。

義之、画面を確認して、顔を顰める。そしてスマホを耳に当て、

義之 「はい。……え？」

訝しそうに封筒に視線を落とす。

9. 東村家・リビング（夜）

食卓には鍋。

義之、取り分けて、小皿を綾香と明日実に渡す。

義之 「いただきます」

黙々と食べる3人。

義之と綾香、唐突に、

義之 「あ」

綾香 「あ」

義之 「ごめん、どうぞ」

綾香 「いいよ、何？」

義之 「大したことじゃないから」

綾香 「……明日、夕飯いらない」

義之 「え？」

綾香 「出かける」

義之 「……ああ」

明日実 「誰と？」

綾香、さっとブレスレットに触れて、

綾香 「友達」

義之 「そっか……」

綾香 「それで、何？」

義之 「あ……」

と、明日実を一瞥して、

義之 「明日3人で出かけたくなって。でもごめん、大丈夫」

綾香、居心地が悪そうに、

綾香 「別に、来週にすればいいんじゃない？」

義之 「え？」

綾香 「私どこでもいいから」

義之 「あ、ありがとう」

綾香 「……うん」

と、食器を片付ける。

明日実 「もういいの？」

綾香、黙ってそそくさと出ていく。

義之、どこか違和感を覚えたようで、眉間に皺を寄せる。

10. 東村家・玄関・中（昼）

義之、さっと靴を履く。

明日実、やって来て、

明日実 「義之さん」

義之 「ちよっと出かけてくる」

明日実 「ね、これ何？」

と、厚みのある封筒を差し出す。

義之、ハッとして、すかさず奪い取り、

義之 「あとで説明する」

と、出ていく。

11. 道（夕）

人の流れに逆行して、義之、走っている。

向こうから、綾香と北坂が談笑しながら歩いてくる。

綾香の手にはアクセサリショップの手提げ。

義之、ピタッと立ち止まる。

綾香と北坂も義之に気づき、制止する。

義之 「綾香さん」

北坂 「よく気づいたね」

義之 「会うなって言いましたよね」

綾香 「え？」

北坂 「誕生日近いからさ、祝ってやりたいじゃん。父親として」

義之 「僕のお金で？」

綾香 「何それ？」

北坂 「綾香に会うなって、金渡してきてんの、ありえないよな」

綾香、義之を睨みつける。

義之、拳を握りしめ、ごくりと息を呑む。そして北坂に近づいて、

義之 「もういいです。好きにしてください」

北坂 「は？」

義之 「その代わり、僕もやめます」

北坂 「なんだよ」

義之、綾香に向き直って、

義之 「綾香さん、ごめん。これから遠慮はなし」

北坂、舌打ち。

義之 「父親として向き合わせてほしい」

綾香、北坂を一瞥して、義之を見つめる。

義之は眼鏡のブリッジをぐっと押し上げて、綾香に微笑む。

(おわり)